

和木小学校コミュニティスクールだより

緑の風



令和7年・6月号

ホーム <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~wakisho/> E-mail wakisyo@sky.icn-tv.ne.jp

食育は未来を考える学び

校長 福江大幸

食育とは、様々な体験（農業体験、給食や食卓、食に対する学習など）を通して「体によい食品、必要な食品を選んでとる知識や能力」「食文化やマナーを大切にする態度」「食糧問題、環境問題の知識とその課題を解決していこうとする態度」を育む態度的ことです。

和木小学校では、2年生が野菜作り、5年生が米作りを体験しています。今年は、1年生がレンコン作りの見学をさせていただきました。「学校農園でレンコンを作る」というアイデアには大変感心しました。他にも栄養教諭の食育教室、家庭科の調理実習、社会科の農・水産業の学習、給食指導など、様々な形で食育を行っています。

食育は、食育基本法が成立した2005年頃から盛んになりました。その背景には、食に関する危機的状況があるからです。日本の食糧自給率は38%です。約60年前の1965年の食糧自給率は73%ですから、半分くらいにまで減っています。また、食べ残しや消費期限で捨てている食料（いわゆる食品ロス）の量が、年間約642万トンに達し、国内で消費される食品の約6%を占めると推計されています。農業就業人口は、50年間で約1,200万人から約140万人まで減少しました。



さらに、児童らが食事する様子を見ると、箸を上手に使えない、茶碗をもたない、好き嫌が多く食べるのに時間がかかりすぎるなどの問題が増えています。また、ファーストフードは好きだが野菜の煮物が苦手、骨のありそうな魚には手を付けない児童も増えています。

こうした諸問題を解決して「持続可能な社会」をつくっていくのは、今を生きる私たちと、未来を生きる子どもたちです。

知識を学ぶだけ、体験するだけでなく、どのように解決していけばよいのかを考えて、協働して実践していく力を付けることが大切です。その中で生まれた実践の一つが、「おむすび弁当の日」のようです。ただ、様々な課題を耳にしています。大切な食育の取組。学校、家庭、地域で知恵を出し合い、よりすばらしいものにしていきたいと思っています。

食育は子どもの未来、和木の未来を考える学びでもあります。家庭、学校、地域で協働して取り組むよう進めて参ります。



和木小コミスクひろば



5月23日（金）と30日（金）、2年生が町探検をしました。（6月6日も含め、計3回実施）今回は8名の方がコーディネーターとして関わってくださっています。友達や教職員だけでなく、地域の方と学び合うことで、学びが深まることはもちろん、「和木PRIDE」の醸成につながります。

